

東川町29年度予算決まる、 総額81億6千390万円

東川町の29年度一般会計予算は75億5000万円、前年度当初予算に比べて3億3千6000万円（4.69%増）、特別会計予算は総額6億5千890万円、前年度当初予算に比べて6千380万円（10.72%増）となりました。一般会計、特別会計を合わせた総額は81億6千390万円（前年度当初予算比3億9千980万円、5.15%増）となりました。

平成29年度行政執行方針

平成29年度行政を執行するにあたり基本的な考え方を申し上げ、議会並びに住民の皆さまのご理解をお願い申し上げます。



第1 ねらい

本年度は町長としての任期3年目に当たり、本任期中に幾つかの課題解決を加速化さ

せるために重要な年となります。議会の皆さま、そして住民の深いご理解をいただき、職員とともに一丸となつて全力で取り組む決意であります。人口減少時代を迎えていますが、今のところ幸いにも本町においてはわずかながらも人口増加している状況にあります。これもひとえに議会をはじめ住民の皆さまの深いご理解の賜であり、心から感謝とお礼を申し上げます。不易流行という言葉がありますが、町づくりは時代がどのように推移しようとも、住民の福祉向上をよりよく実現することには不変、不易であり、時代の流れに順応できる柔軟さも維持しながら、持続可能なものでなければなりません。そのためには常に能動的に行動する職員、共益の視

点に立った強い組織機構と多様な連携、そして健全な財政運営が不可欠であります。最新の情報をできる限り議会の皆さまと共有し、常に問題意識を持ちながら円滑かつ迅速な対応に徹し、「静観後手型の行政」ではなく、課題を早期に発見し、早期対策を講じていく「先後後幸型の行政」「スピード感のある行政」「取りこぼしのない行政」を展開したいと考えています。今、東川町の町づくりは全国的にも注目されていると感じています。実態と評価の間に大きな離れが生じないように住民の方々とも十分連携し、住民各位から「東川町は最高」と評価を受けられるように取り組んでいきますので、深いご理解とご支援をお願いします。

以下、今年度において重点として展開するところについて申し上げます。

第2 地方創生の目標「写真文化首都創生」「3GEN則」

地方創生が本格的にスタートして2年目となりますが、この町にも共通している課題は「3GEN則」の確保にあると思います。それは

1、人間（GEN）確保 2、資源（GEN）確保 3、財源（GEN）確保 であり、また人間確保や資源確保、そして財源確保が連関する「3GENの循環」が創造的で持続する町づくりに不可欠なものとなっております。

第一に人間確保であります。人口8千人水準を未来にわたって維持することに努めます。このためには昨年に引き続き、次の点を重点として施策を展開します。

ア、ダム機能の充実 イ、ハブ機能の充実 ウ、キー機能の実現化

特にキー機能は、老若男女が「集い、語り、学び、創（つく）り、楽しむ」ことができる複合施設「たまり場」であり、ダム機能とハブ機能

の人々をつなぐ、地元住民と国内外の人々との出会いの場でもある複合施設であります。住民の声が強かった図書、雑誌、新聞などの出版物、ビデオや写真、家具デザイン、大雪山に関する資料を配置し、利用する家具類などは地元職人によるデザイン力と耐久力のあるものの配置に努め、個性（文化芸術性）と魅力ある中心市街地の拠点施設づくり、ソフト面での運営充実に努めます。

国の2016年度補正関連事業の確保に努め、本年度の実現を目指します。

第二に資源確保であります。町は多様な資源を有しています。この資源を掘り起こし、人間力によって価値あるものとしていかなければなりません。特に自然資源と人々が織りなす文化資源の活用であります。文化資源を生かすことが地域活力の向上に貢献することを多くの文化人が提唱し、全国各地で実践してきています。

ヨーロッパでは文化首都を指定し、多様な文化芸術活動を地域活性化の視点から展開しています。本町の産業は「お米と観光、工芸の町」にも表現され、それぞれの産業